

園長かわら版

風通しをよくし、職員のチーム力を高め、楽しい職場

2020年4月16日

日南・飢肥カトリック幼稚園

文責 佐藤 泰信

新年度、今こそ保育の基盤をしっかりと

毎日大忙しの先生方、健康第一でお願いしますね！以下は11日の職員会で確認した内容です。現実にはなかなか厳しいところがありますが、失敗を恐れず笑顔、笑顔で高見をめざしましょう！

本園のめざす教育保育

裏面を参照してください。特に「特別支援教育の視点」を取り入れる点が今年の特徴です。本園のスローガンは「神様から愛されている子」。この子も、どの子も、みんな神様から愛されている子、です。それを実感として子どもに感じてもらえる教育保育を実現させるためには、どうしても特別支援の視点が必要。そして、その手立ては対象となる子だけでなく、全ての子によっても「心地よい」場所を生み出すことになるはず。事業所の「風の子」や医療機関の「愛泉会」、そしてこども課と連携しながら少しずつ進めていきます。

共有したい教育保育観～人に優しく仕事に厳しい職場～

- けじめのあるスマホ利用
 - ・子どもの前では使用しない。園ラインも10時以降は控える。 ・写真撮影は可
- 名前はちゃん、くんづけで(あだ名は×省略△)…職員間の会話でも
 - ・未満児で家庭での呼び名を尊重するのはOK ・以上児は努めて本名で
 - ・大人が言われてイヤなことは、子どももイヤ
- 午睡時は背を向けない・自由遊びでも子どもをしっかり観察
- 出勤時刻・提出期限守る…遅れそうなときは連絡・相談
- 保護者に丁寧な対応…タメ口は控える、分らないことは「確認してから」
ホワイトボードも活用して必要事項の申し送り
- 金銭授受は必ず記録化
- バス乗車中の態度にも注意(見られている)
- 行事の記録化(計画と写真記録) →終礼も活用して、小さいことにも早期対応

「どうしたらいいかな。考えてごらん(´.´)」

子どもへの声かけ、接し方はそのまま「お手本」としてすり込まれます。「○○しないと△△はあげないよ」を多発していると、友達に「○○しないと、いっしょに遊ばない！」「○○しないと仲間に入れない！」と言って相手を従わせようとする子どもが育ちます。本園がめざすのは、「自分で考えて行動できる子」。「ダメだよ！」ではなく、なぜ泣くのか、なぜそうしてしまったのか…その気持ちに寄り添い、共感しながら、「なぜいけないのか」を伝えたり、「どうすればいいのか」提案したりする。そして、「自分で考えられる」よう導く。自分で決めてやってみて、そして失敗して人は育つのだと思います。

今年は以上児の自由遊びの時間を増やすことにしました。遊びの中でも、それ以外の生活の中でも、「考える、選ぶ、失敗しても大丈夫」な場を大切にしたいです。

生まれてきてよかったと実感できる幼稚園

～心のふるさと～

主体性を伸ばす教育保育

社会

- 保護者
- 地域(小学校・高校・近隣園)
- 関係機関(行政・事業所・医療機関)

人

- 肯定的・共感的態度と言葉かけ
- 子どもの人格を尊重する態度
- 子どものよさを引き出す熱意

物

- 意欲を引き出す玩具・遊具・図書
- 活動を選べる環境
- 安らげる空間

時

- 考えたり、選んだりする時間
- 熱中したり、深めたりする時間
- 共有・共感する時間

命 自然

- 植物・小動物
- 命・性教育(性的マイノリティ)
- 人権障がい者・高齢者・外国人

ていねいな保育

特別支援教育の視点

多様性を大切に、違いを認め、受け入れる

安心・安全・信頼

共通理解・共通実践

整備された施設環境

整えられた労働環境

カトリック精神

「神様から愛されている子ども」

- 神様から命をいただいて等しく愛されている、かけがえのない大切な存在
- 自分で判断し、選択できる力と自由意志を生まれながらに持っている存在
- 愛され、自由を尊重されている時、よりよく生きようとする力が発揮される存在